**教育目標**

健康で個性豊かな人格を養い、

より良い社会をつくる人材を育成する。

**学校存在意義（スクールミッション）**

地域と連携した普通科の那珂川学、水産科の専門的学習、

そして個々を大切にする多様な学びを通して、地域社会を支える人材を育成する学校

**令和６年度　栃木県立馬頭高校　学校自己評価**

**※達成度（小文字）・評価（大文字）について**

**本年度の重点目標**

１．安心・安全な教育環境の実現　　　　　２．本校の特色ある教育活動の充実

３．キャリア教育の推進　　　　　　　　　４．地域に開かれた信頼される学校づくり

**a・A**：十分できた　**b・B**：概ねできた　**c・C**：不十分だった

**●重点目標１．安心・安全な教育環境の実現**

|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 学年・部 | **評価項目（具体策）** | **達成状況** | **達成度** | **次年度への課題** | **評価** |
| 　１年 | 〇避難訓練・生徒指導講話を活用し、マニュアルのとおりに実行したり、校則や社会のルールを守ったりすることで、自己の安全が確保できる生徒を育成する。〇自分の身の回りや教室内の整理整頓や清掃を心がけ、落ち着いた学習環境の維持に努める。 | 〇訓練・集会等では概ね真剣に取組むことができたが、一部、実生活に結びつけて行動することのできない生徒がみられた。〇清掃を熱心に取組む生徒が多かったが、一部に生活態度に心配なものもみられた。 | bb | 〇継続した指導が必要である。〇進学・就職といった目的意識と結びつけることで指導内容を理解できるようにする必要がある。 | B |
| 学習 | 〇情報リテラシーについて基本的な知識・技能を習得させ、SNS利用に関する規範意識の向上と人権意識の涵養に努める。 | 〇情報科の授業や１年人権教育等で注意喚起を十分に図っているが、一部には個別指導が必要な場面がみられた。 | b | 〇継続的で多面的な指導が必要と思われるので、情報科のみならず、公民科とも連携を図り生徒の意識向上をめざす。 |
| 健康 | 〇安全点検の実施と故障箇所発見時には早急に修繕する。清掃指導を充実させ施設を現状保存できるようにする。〇避難訓練で消防と連携し災害時の対応ができるようにする。 | 〇事務室との連絡が十分に図られている。生徒は清掃をしっかり行っている。〇生徒は真剣に訓練に取り組んでいた。 | aa | 〇安全点検後の事務室との緊密な連携を今後も継続する。〇消防署員講話等、訓練内容を充実させる。 |
| 生徒**●重点目標２．本校の特色ある教育活動の充実** | 〇正しい服装・髪型、清楚な身なりの定着を図る。〇交通安全指導を充実し、交通マナーへの意識を向上させる。〇アンケートや面接や教育相談を充実し、いじめの早期発見と組織的対応に務める。 | 〇概ね指導が行き届いていた。〇重大な事故はなかったが、地域の方から注意を受けることはあった。〇クラス担任と教育相談係との連携が向上した。 | aba | 〇今後も丁寧な指導を継続していく。〇交通マナー向上のための指導の向上を図る。〇事案に関する情報共有は、関係職員だけではなく、全体に行われるべき。 |

|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 学年・部 | **評価項目（具体策）** | **達成状況** |  | **次年度への課題** | **評価** |
| １年 | 〇生徒の学習到達度の掌握に努め、朝の学習などを活用し、継続的に個に応じた指導に取り組む。 | 〇「朝の学習」時間に文章を書く学習を取入れる等の学習内容の工夫ができた。 | a | 〇指導継続が重要なので教科と連携し、LHRと活用ながら個別最適な学習機会を増やす。 | B |
| 特活 | 〇生徒会活動の計画や運営を、生徒たちが主体的に行えるよう、生徒への指導および各委員会顧問との調整を行う。〇学校行事を通して、生徒の集団への所属感や連帯感を深め、望ましい人間関係の形成を図るための計画・実施を行う。 | 〇関連係と事前調整を密に行うことで、順調に生徒会活動を運営することができた。〇各行事の目的を明確にすることで、企画・運営とも順調に実施できた。 | bb | 〇生徒のニーズを把握し、実態に合わせた活動を計画・実施していきたい。〇所属感・連帯感を深める具体策とその評価方法についても考えていきたい。 |
| 学習 | 〇基礎学力の充実・定着に向け、自主学習の習慣化を推進するとともに授業や課題学習における「学びなおし」の機会創出を促す。 | 〇外部システム（スタサプ）の導入、一部利用が始まった。 | a | 〇自主学習を促進するような取組みについて、さらに研究する。 |
| 地協 | 〇普通科「那珂川学」を各部係、教科、学年の連携・協力のもとで実施する。特に、水産科「課題研究」との連絡調整を図る。 | 〇「那珂川学」は各学年主導で順調に実施できた。連携には課題が残る。 | b | 〇１学年の年間計画は那珂川学係が前年度のうちに立てておく必要があると思われる。 |

|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 学年・部 | **評価項目（具体策）** | **達成状況** | **達成度** | **次年度への課題** | **評価** |
| ３年 | 〇教科指導、教科外の諸活動、各種検査結果等に基づいて、的確な自己理解を深める。〇進路資料、情報を適切に提供し、有効に活用させる。〇生徒、保護者との時宜にかなった進路相談を実施する。 | 〇１学年から「那珂川学」とも連携した企業訪問が有効だった。〇自発的に情報収集する姿が見られた。〇十分なコミュニケーションがとれた。 | aaa | 〇「那珂川学」における地域研究の中で多くの企業訪問を実施することは、進路意識の向上にもつながるので今後も継続すべき。 | A |
| ２年 | 〇インターンシップや修学旅行を通して、職場や地域社会で多様な人々と仕事をしていくために必要な基礎的な素養を身につける。 | 〇生徒自身の進路適性について具体的に考え、調査する積極性が身についた。 | a | 〇インターンシップでは、さらに受入れ先を開拓する必要がある。 |
| 進路 | 〇社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる能力や態度を育てるため、各種ガイダンスの充実に努め、適切な資料・情報の提供を進める。 | 〇校外企業説明会の希望者を募ったところ10名以上参加した。進路意識の向上と積極性の高まりがみられた。 | a | 〇進路ガイダンスを教育関連業者から進路指導部企画するものへシフトすることにより、より生徒の実態や興味を反映する。 |

**●重点目標４．地域に開かれた信頼される学校づくり**

**●重点目標３．キャリア教育の推進**

|  |
| --- |
| 本年度、初めて「Forms」でアンケートを実施した。生徒の回答率に比べ、保護者の回答率が低くなってしまった。今後は丁寧な回答方法の周知と説明、従来の「紙」によるアンケートの併用も検討したい。　今回の結果から良かった点としては、まず、生徒は真剣に授業に取組んでいることだ（生徒①③）。家庭でも学校生活についてもよく話題に上がっているようなので（保護者②）、家庭と学校が連携することで生徒の学習意欲を高めていきたい。また、本年度より通級による指導も本格的に始まっている。約8割の生徒・保護者から本校の教職員は相談しやすい（生徒⑨保護者⑮）と評価されていることから今後も保護者・教員、スクールカウンセラーも含めた緊密な連携の下、生徒が安心して学校生活を送れるよう努めていきたい。　一方で、今回より保護者評価に「わからない」を追加したことにより、部活動・進路指導等への評価が低くなっているる（保護者⑩⑪）。部活動は精選が進んでいるが、レスリング・アーチェリー部をはじめとする各部活動は盛んである。進路指導も本年度より保護者参加の進路説明会も実施した。ＨＰ等を活用しながらよりよく学校の活動を知ってもらえるよう努力したい。 |

|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 学年・部 | **評価項目（具体策）** | **達成状況** | **達成度** | **次年度への課題** | **評価** |
| 地協 | 〇那珂川学やインターンシップをとおして生徒の地元事業所や諸団体への理解を深めさせる。〇事業、行事に関する連絡調整の中で、地域や企業が本校にどのような期待・要望があるかをくみ取れるよう努力する。 | 〇ボランティア活動に進んで参加する生徒が増えた。〇情報交換が進み、地域おこし協力隊員との連携体制が構築できた。 | ab | 〇ボランティア部以外からも地域活動に参加する生徒が増えるよう意識向上を図る。〇ＰＴＡや学校運営協議会を中心に地域の協力を得られるよう具体策を検討する。 | A |
| 進路 | 〇地元企業を中心とした外部資源を活用した各種ガイダンスの充実に努める。 | 〇進路指導部企画のガイダンスへの参加企業が増え、情報交換も十分に行えるようになった。 | a | 〇地元企業による就職ガイダンスをより一層充実させるとともに生徒の意向を重視しながら地元定着（就職）率を上げる。 |
| 健康 | 〇本校は指定避難所に指定されているため、災害時に適切な対応ができるよう地元役場・消防等の関連機関や地域住民との連携を強化する。 | 〇那珂川町の防災担当係との情報交換が進み、避難所関連施設として体育館に町によって非常用LANが設置された。 | a | 〇本年度策定した「避難所開設マニュアル」に基づいて校舎を使用する場合の検討を進める。 |

　　　　　　　重点目標１～４とも良い評価であった。重点目標２の「本校の特

色」をどのように伸ばしていくかが次年度以降の課題となる。生徒の

実態とニーズの把握に努め、馬頭高校の特色を活かしつつ、一つ一つ

の教育活動を丁寧に行い、今後も家庭との連携を密にしつつ、生徒に馬

頭高生であることに誇りを持ってもらえるような教育活動を行っていき

たい。

B

**●総合評価**

**●保護者・生徒アンケート分析より**

**●学校関係者評価より**